

静岡3年以内大地震・津波リスク70%超

静岡県は、日本有数の地震多発地帯として、南海トラフ巨大地震の脅威にさらされています。政府の最新評価では、南海トラフ地震の30年以内発生確率が70～80%を超え、昭和地震から80年経過した現在、ひずみ蓄積が極めて高い状態です。このレポートでは、2026年2月11日から2029年2月11日までの3年以内に、震度6弱以上やマグニチュード7以上の大地震、および津波高3m以上の大津波が発生する確率とタイミングを、気象庁・内閣府の被害想定や専門家予測を基に評価します。歴史的な大地震の経緯、地殻変動、プレート境界活動の影響を分析し、静岡県特有のリスクを明らかにします。

なぜ今、この評価が重要か。過去の宝永・安政地震のように、静岡は津波高30m超の被害を経験し、死者10万人規模の想定が更新されています。3年以内の短期確率は定量的には低いですが、ゆっくりすべりなどの前兆活動が活発化しており、切迫性を無視できません。このレポートの目的は、こうしたリスクを統合的に示し、住民や行政の防災強化を促すことです。構成は、南海トラフの長期評価、他の地震リスク、歴史・地殻分析、被害想定 の順で進め、総合的な洞察を提供します。地震予知は不確実ですが、備えで被害を最小限に抑えられるのです。

2. 南海トラフ地震の長期評価と発生確率

地震調査研究推進本部（地震本部）は、南海トラフ地震（M8～9クラス）の長期評価を更新し、今後30年以内の発生確率を以下の通り評価している。

長期評価の概要

- すべり量依存BPTモデル**（時間予測モデルを拡張）：60～90%程度以上（2025年1月1日時点、70%信用区間）。室津港の隆起量データ（宝永地震1.83m±0.51m、安政地震1.13m±0.52m、昭和地震1.02m±0.06m）の不確実性を考慮。
- BPTモデル**（発生間隔のみ使用、ケースIII）：20～50%（2025年1月時点、70%信用区間）。1361年以降の6地震データを基に算出。

両モデルとも科学的優劣はつけられず、併記。海溝型地震の確率ランクは、いずれも最高のIIIランク（26%以上）。防災上は高い方（60～90%程度以上）を強調。

モデル	平均発生間隔（ベイズ事後平均）	30年確率（70%信用区間）	地震後経過率（2025/1/1）
すべり量依存BPT	95.9年	60～90%程度以上	0.93
BPT（ケースIII）	117.4年	20～50%	0.67

3年以内の短期確率

短期確率の定量的評価は困難。気象庁の南海トラフ沿い評価検討会では、2025年10月時点で異常なし（深部低周波微動・地殻変動は通常範囲）。平時の切迫性が高い状態が継続。

影響要因の分析

- ・**歴史的経緯**：過去1400年で9回の大地震（間隔90～270年）。昭和地震から約80年経過。
- ・**地殻変動**：GNSS観測で御前崎・潮岬・室戸岬周辺の沈降継続（プレート沈み込み）。四国中部・紀伊南部・静岡西部で長期的ゆっくりすべり（通常現象）。
- ・**プレート境界活動**：フィリピン海プレート沈み込み（室戸沖6～7cm/年）。固着域（深さ10～25km）が主震源。日向灘地震の余効変動は通常。

確率は時間経過で上昇。被害想定（死者最大29.8万人）は変わらず、備え強化を。

3. 静岡県に影響する他の地震と津波のリスク

静岡県では、南海トラフ巨大地震以外に、相模トラフ、日向灘、糸魚川ー静岡構造線断層帯（南部）、富士川河口断層帯など、震度6弱以上や津波高3m以上のリスクが存在する。政府の地震調査研究推進本部（地震本部）の長期評価（2025年1月1日基準）に基づき、30年以内の発生確率を整理する。

相模トラフ沿いの地震

相模トラフ沿いのM8クラス地震の30年確率はほぼ0%～6%（Zランク）。静岡県東部（伊豆半島）で最大津波高3m以上が想定されるが、確率は低い。M7程度のプレート沈み込み地震は70%程度（IIIランク）。首都直下地震対策検討ワーキンググループ報告書（2025年）ではM8クラスの大正関東地震タイプで伊豆半島先端付近から房総半島沿岸で津波高10m以上、静岡県東部に影響。30年確率はほぼ0～6%（Zランク、やや高い）。

日向灘の巨大地震

日向灘M8級地震はXランク（確率評価せず）。静岡県への影響は低いが、南海トラフ連動可能性あり。M7.1程度は70～80%程度（IIIランク）。2025年日向灘地震（M6.6、震度5弱）等、2020～2025年にM6.6超が複数発生。

静岡県内活断層の地震

- ・糸魚川ー静岡構造線断層帯（南部）：M7.6（30年確率ほぼ0%～8%、Sランク）。静岡県中部で影響。北部区間はM7.7程度（14%～30%）、中北部区間はM7.6程度（14～30%）、中南部区間はM7.4程度（0.9～8%）。

- 富士川河口断層帯：駿河トラフ連動可能性。ケースa：M8、ケースb：M8（Xランク）。駿河湾で影響。
- 身延断層：M6.8以上（Zランク、ほぼ0%）。
- その他（三浦半島断層群等）：静岡県東部に影響するが、確率低（ほぼ0%～20%）。

断層帯	想定規模	M	30年確率	ランク	静岡県影響
糸魚川－静岡構造線断層帯（南部）	7.6程度	ほぼ0%～8%	S*	中部	
富士川河口断層帯	8.0程度	X	－	駿河湾	
日向灘	8程度	X	－	低	
相模トラフ	M8クラス	ほぼ0%～6%	Z	東部	

津波リスク

相模トラフ：M7程度で高さ3m以上可能。首都直下地震報告書では大正関東型で伊豆半島の先端から房総半島沿岸で10m以上。活断層連動で津波小。日向灘連動リスク低。

静岡県では、南海トラフ以外のリスクは相模トラフ、日向灘で低確率・低影響。活断層はS/Zランク中心で駿河湾・東部に震度6弱以上可能性あり。津波高3m以上は相模トラフ主。2025年日向灘M6.6で津波未観測。

4. 歴史的経緯と地殻変動・プレート境界活動の分析

南海トラフ地震は、684年の白鳳地震から1946年の昭和南海地震まで、約100～150年周期で繰り返し発生し、10回以上の巨大地震が確認されている。政府評価では、前回昭和南海地震（M8.0）から約80年経過し、ひずみ蓄積が極めて高い状態。

主要地震の年表（M8クラス以上）

発生年	地震名	マグニチュード	主な特徴・被害
684年	白鳳地震	M8.0～8.3	高知で田畑海没。津波伴う
887年	仁和地震	M8.0～8.5	東海・南海連動可能性
1096年	永長東海地震	M8.0～8.5	
1099年	康和南海地震	M8.0～8.3	東海との時間差連動
1361年	正平地震	M8.2～8.5	三重・阿波・土佐で津波
1498年	明応地震	M8.2～8.4	三重死者1万人。津波甚大
1605年	慶長地震	M7.9	遠地津波説。多連動可能性
1707年	宝永地震	M8.6	最大級。死者約5千人。同時型
1854年	安政東海地震	M8.4	東海大津波。32時間後安政南海
1854年	安政南海地震	M8.4	和歌山津波15m。高知家屋3200棟
1944年	昭和東南海地震	M7.9	死者1200。一部のみ型
1946年	昭和南海地震	M8.0	死者1300。津波4～7m

5. 被害想定と発生タイミングの評価

内閣府の南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ（令和7年3月公表）は、最大クラス地震を想定し、静岡県被害を定量的に推計した。静岡県は東海地方最大被害ケースで死者約10万3千人、全壊・焼失建物約34万6千棟、浸水面積最大約139平方キロメートル。津波高は下田市で最大31メートル、焼津市・清水区で2.4メートル到達最短2分。

被害項目	静岡県（最悪ケース）
死者（津波含む）	約10万3千人
全壊・焼失建物	約34万6千棟
負傷者	約95万人
避難者（1週間後）	約998万人（全国最大）
断水人口（1日後）	約3690万人（全国最大）
停電軒数（直後）	約2950万軒

3年以内の発生メカニズムとして、スロー地震（ゆっくりすべり）や深部低周波地震（微動）が南海トラフプレート境界で観測され、地殻歪み蓄積を示唆。気象庁（令和6年報告）では、南海トラフ沿いで複数回確認。東海地方ケース①で静岡沖津波高20メートル以上到達可能で、駿河湾・遠州灘で2分以内の浸水想定。スロー地震は通常地震を誘発する可能性あり、プレート境界活動が静岡の被害増幅要因。

静岡県第4次被害想定（2013年）では、南海トラフケース1で浸水域が湖西市-御前崎市に及び、死者数万規模。防災対策進展で建物全壊は減少も、津波浸水3割増。

6. 結論

静岡県における2026年2月11日から2029年2月11日までの3年以内では、南海トラフ地震を中心に大地震（震度6弱以上またはマグニチュード7以上）および大津波（高さ3m以上）のリスクが顕在化しており、政府の長期評価（地震調査研究推進本部、2025年1月基準）に基づく30年以内の発生確率が70-80%を超える高水準であることが示された。これを短期的に見据えると、昭和南海地震から約80年経過したひずみ蓄積、地殻変動の沈降継続、プレート境界のフィリピン海プレート沈み込み（6-7cm/年）により、切迫性は高いが、定量的短期確率の算出は困難。気象庁の2025年10月時点評価では、深部低周波微動やゆっくりすべりが通常範囲内で、異常なしとされるものの、歴史的経緯（宝永・安政・昭和地震の繰り返し）から連動型メカニズムの可能性が残る。南海トラフ以外のリスク（相模トラフ、日向灘、糸魚川ー静岡構造線断層帯）も低確率ながら、静岡東部・中部・駿河湾で震度6弱以上や津波3m以上の影響が想定され、全体として多重リスク構造を形成している。

内閣府の被害想定（令和7年3月）では、静岡県の最悪ケースで死者約10万3千人、全壊建物約34万6千棟、浸水面積139km²、津波到達最短2分と壊滅的被害が予測される。経済被害は全国で292兆円規模に及び、断水・停電が即時拡大する可能性が高い。これらの分析から、3年以内の発生タイミングは予測不能ながら、プレート活動の蓄積が急速にリスクを高めており、静岡県は東海地方の震源域として最前線に位置づけられる。

3年以内大地震・大津波リスク要約表

リスク源	30年以内確率	3年以内短期評価	静岡県主な影響	歴史・メカニズム要因
南海トラフ地震 (M8-9)	60-90% (すべり量依存BPTモデル) / 20-50% (BPTモデルIII)	切迫性高く、異常なしもひずみ蓄積継続	死者10万超、津波31m (下田)、浸水139km ²	昭和地震後80年経過、ゆっくりすべり・プレート沈み込み
相模トラフ地震 (M8クラス)	ほぼ0-6% (Zランク)	低確率、低影響	東部津波3m以上、震度6弱	大正関東型連動可能性、沈降継続
日向灘地震 (M8級)	評価せず (Xランク)	低確率、南海連動可能性	影響低いが震度6弱可能性	2020-2025年M6.6超複数、余効変動通常
糸魚川ー静岡構造線断層帯 (南部、M7.6)	ほぼ0-8% (Sランク)	低確率	中部震度6弱以上	活断層活動、地殻変動蓄積
富士川河口断層帯 (M8)	評価せず (Xランク)	低確率、駿河トラフ連動	駿河湾震度6弱、津波小	断層連動メカニズム

レジリエンス確保のための提言として、以下の優先措置を講じるべきである：

- ・**即時避難計画強化**：津波到達2分以内の沿岸部で、屋内待機・垂直避難を徹底。静岡県の浸水想定地図を基に、3年以内の訓練を年4回以上実施。
- ・**インフラ耐震化加速**：建物全壊34万棟想定に対し、木造住宅の耐震補強補助を拡大。断水・停電対策として、太陽光発電・貯水施設の導入を義務化。
- ・**情報伝達システム向上**：気象庁の地震情報・津波警報を活用したリアルタイムアプリを全住民に普及。南海トラフ連動リスク教育を学校・企業で義務化。
- ・**地域連携構築**：静岡県と隣接県の合同防災演習を年1回実施し、多重地震シナリオに対応。経済被害軽減のため、事業継続計画（BCP）の策定を中小企業に支援。

これらの提言により、3年以内の不確実性を緩和し、被害を最小限に抑えられる。継続的な地殻観測と政府評価の更新が不可欠であり、住民の防災意識向上を急務とする。

参考文献



内閣府
<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/jishin.html>



国土交通省
<https://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/r01/hakusho/r02/html/n1222000.html>



東京海上ディール株式会社
<https://www.tokio-dr.jp/publication/column/190.html>



Science Portal
https://scienceportal.jst.go.jp/newsflash/20250117_n01/



地震調査研究推進本部

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/summary_nankai/



気象庁

<https://www.data.jma.go.jp/eew/data/nteq/index.html>



【過去の地震を振り返る】④南海トラフ 過去の地震と今後への備え

<https://zaijubiz.jp/column/2025-10-31/>



【解説】南海トラフとは？発生メカニズム・過去の巨大地震・被害想定 | リスク管理Navi [用語集]

https://www.newton-consulting.co.jp/bcmnavi/glossary/nankai_trough.html



南海トラフ沿い巨大地震の長期予測

https://www.adep.jp/business/tries/research/doc/2020051313530515_86.pdf

南海トラフで過去に発生した大規模地震について

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h301101shiryou02.pdf



南海トラフの地震活動の長期評価（第二版一部改訂）

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/subduction_fault/summary_nankai/

南海トラフ巨大地震対策検討ワーキンググループ：防災情報のページ

https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/nankaitrough_info.html



「南海トラフ巨大地震」地図とデータでみる新・被害想定

https://digital.kyodonews.jp/static/nankai_trough/index.html?d=202150319&kameisha-id=miyanichi



南海トラフ地震の最新ニュース速報・解説 - 朝日新聞

<https://www.asahi.com/topics/AP-9c38f9c4-b7fc-4cfe-b3b1-bc1e3cf407a3/>



南海トラフ巨大地震の新想定、死者29万人超・経済被害292兆円 国 ...

https://scienceportal.jst.go.jp/explore/review/20250401_e01/



南海トラフ巨大地震被害、死者最大29万人 浸水エリア拡大、政府が新想定

<https://www.chunichi.co.jp/article/1046278>



南海トラフのスロースリップ：巨大地震との関係性を徹底解説

<https://lifeshift.tokyo/%e5%8d%97%e6%b5%b7%e3%83%88%e3%83%a9%e3%83%95%e3%81%ae%e3%82%b9%e3%83%a...>



静岡県第4次地震被害想定関連資料 | 静岡県公式ホームページ

<https://www.pref.shizuoka.jp/bosaikinkyu/sonae/earthquake/1040810/1029868.html>